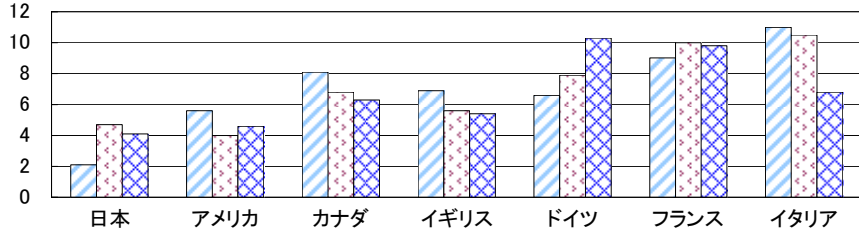
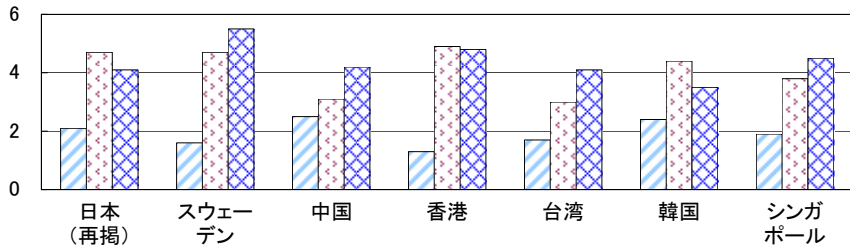


4-2 失業率（各国公表値）

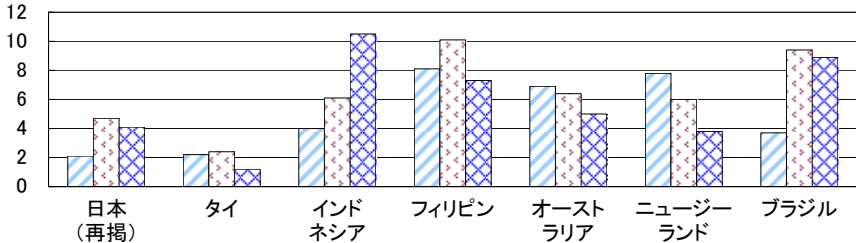
(%) 1990 2000 2006



(%)



(%)



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第4-2表 失業率(各国公表値)」(p.143)を参照。
 (注) 1990年:ドイツ, フランス, シンガポールは1991年値, インドネシアは1996年値。2000年:シンガポール, ブラジルは2001年値。2006年:フランス, 中国, 台湾は2005年値, ブラジルは2004年値。

各国公表値による失業率の動きをみると、1990年以降上昇傾向にあったアジア諸国のうち、日本、韓国、フィリピンの失業率はここ数年低下傾向にある。1990年代には高水準であったものの2006年にかけて低下を示したのはオセアニア地域やカナダ、イギリス、イタリアで、1990年代以降一貫して上昇しているのはドイツ、スウェーデンである。こうした違いの背景には、成長率の差異等の景気動向のみならず、年齢等の人口構成、慣行及び政策制度面での差異といった構造的要因もあると考えられる。なお、失業率の定義は各国ごとに異なるため、公表値をそのまま比較することは適当でない。